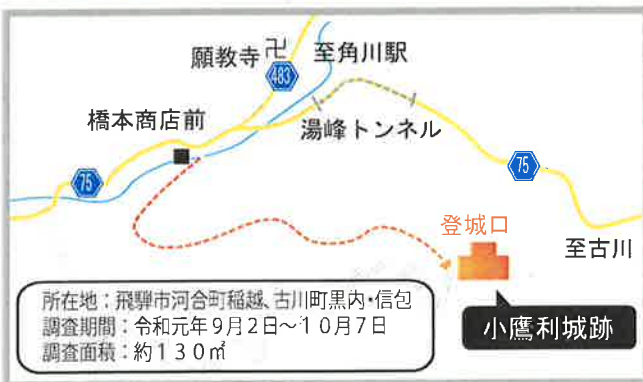
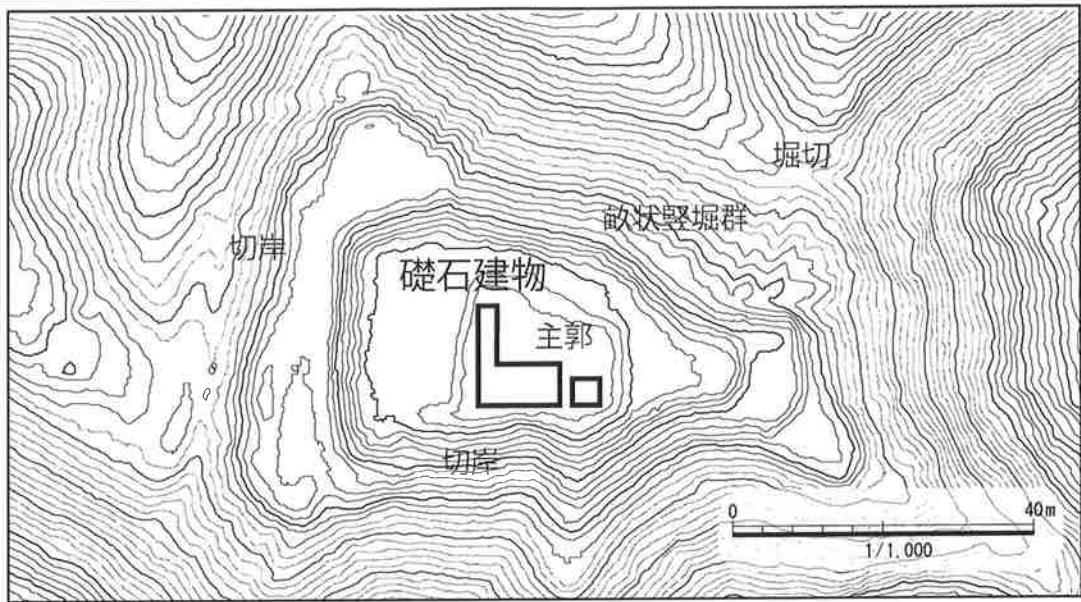
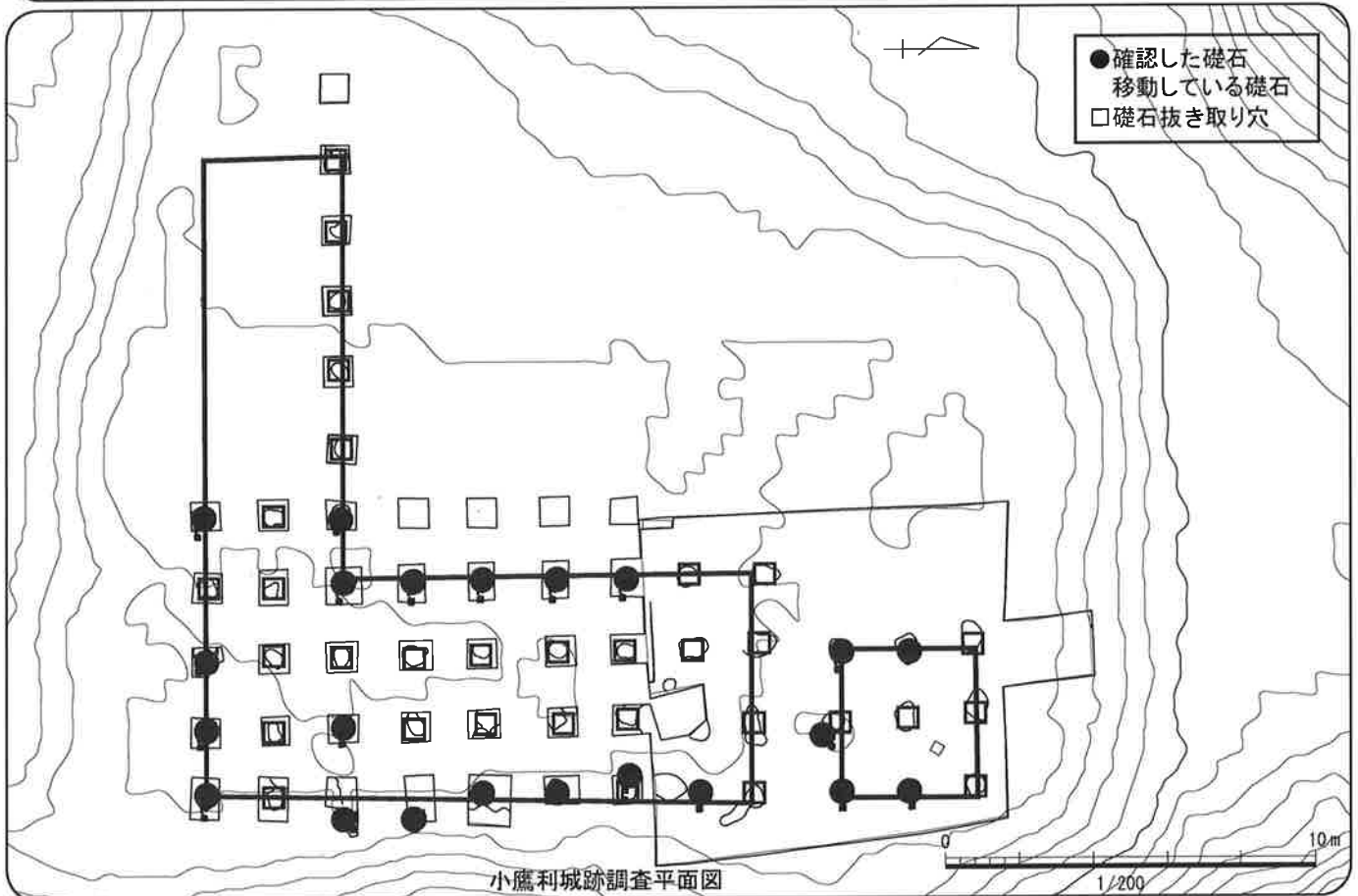


小鷹利城跡 現地説明会資料





小鷹利城跡調査概略図



小鷹利城跡調査平面図

小鷹利城跡における試掘確認調査の概要

主郭において発掘調査を実施し、2棟の礎石建物と中世の陶磁器等を確認しました。

大きい方の礎石建物は、8間×3間です。建物は6間×2間が張り出しており、曲屋の形状となります。もう一つの礎石建物は、2間×2間となります。ただし、今後の検討により、建物の規模や形状が変わる可能性があります。

遺物は、輸入陶磁器である青磁の碗や、能登半島で焼かれた珠洲焼の甕が出土しました。

小鷹利城跡は古川盆地の北西に位置し、白川郷方面からの敵に備えたと考えられる山城です。今回の発見は、城の使われ方や年代を考える上で貴重な発見になりました。